

答え合わせ・解説

問1	答え 2 燃料	薪水給与令に基づき、幕府は日本近海に來航する外国船に対して、薪（燃料）や水、食料を供給し、糧やかに退去させることを命じました。これは、無用な軍事衝突を避け、開国要求を先延ばしにするための消極的な妥協策でした。
問2	答え 2 アヘン戦争	清政府がアヘンの取り締まりを強化したことに反発し、イギリスが武力で開国を迫ったことで勃発しました。近代的な軍事力を持つイギリスの前に清は完敗し、南京条約を結んで香港の割譲や開港を余儀なくされました。
問3	答え 2 金銀交換比率	当時の日本は「金：銀＝1：5」程度でしたが、欧米では「1：15」程度でした。そのため、外国商人は日本へ銀を持ち込み、割安な比率で金と交換して持ち出すことで莫大な利益を得ました。この結果、日本の金が急速に海外へ流出し、幕府の財政は悪化しました。
問4	答え 2 薩長同盟	坂本龍馬や中岡慎太郎の尽力により、京都で西郷隆盛と木戸孝允が会談し、薩長同盟が成立しました。この同盟により、両藩は武器や物資の融通を行い、強力な軍事力を保持することになりました。
問5	答え 4 ゲティスバーグ演説	リンカーンはわざわざ数分の演説の中で「人民の、人民による、人民のための政治」という言葉を使い、民主主義の理想を簡潔かつ力強く訴えました。国家の分裂という危機を乗り越え、国民が一致団結して自由と平等を目指すべきだと主張しました。
問6	答え 1 下田	下田は現在の静岡県に位置する港町です。和親条約により、アメリカ船への燃料・食料の供給を目的として箱館とともに開港地に選ばれました。初代アメリカ総領事ハリスが滞在した玉泉寺があることでも有名です。
問7	答え 2 品不足	輸出の増加により国内の在庫が減り、供給が不足しました。さらに、金貨の流出や幕府による貨幣改鑄が重なり、お金の価値が下がって物価が異常なほど高騰しました。庶民にとって不可欠な米の価格も上がり、生活は困窮を極めました。
問8	答え 4 奴隷解放宣言	戦争中の1863年、リンカーン大統領は「奴隷解放宣言」を発表しました。これにより、南部地域の奴隷は法的に自由の身となりました。これは人道的な目的だけでなく、北部の軍事的勝利を目指す戦略的な意味合いもありました。
問9	答え 1 井伊直弼	井伊直弼は幕府の老老として、朝廷の許可（勅許）を得ないままアメリカと日米修好通商条約を結び、横浜などを開港しました。これによって自由貿易が開始されましたが、反発を強めた攘夷派を安政の大獄で厳しく弾圧したため、恨みを買うこととなりました。
問10	答え 4 鎖国	長年にわたり、外国との交流は長崎でのオランダや中国との限られた貿易のみに制限されていました。しかし、1854年の日米和親条約により、この体制は事実上終了しました。
問11	答え 4 金貨	当時の日本は金銀比価が金安だったため、外国人商人が銀を持ち込んで日本の金貨と交換し、それを海外で金と交換して大きな利益を得る「金銀交換比率の差を利用した投機」が横行しました。これにより、国内の金貨が急速に海外へ流出しました。
問12	答え 1 金銀交換比率	外国商人は、海外に持ち出すと価値が高くなる日本の金貨を、銀貨と交換して大量に持ち出しました。このため、日本の金貨が急速に国外へ流出したのです。
問13	答え 3 蒸気船	太平洋航路の開拓において、日本はちょうどアメリカとアジアの中継地点に位置していました。列強は航行距離を延ばすために、日本を燃料補給基地として利用することを強く望みました。そのため、日本に対し開港を求める圧力が非常に強まりました。
問14	答え 4 日米修好通商条約	老老の井伊直弼が朝廷の許可を得ないまま独断で調印しました。この条約では、日本が外国に対して関税を決める権利（関税自主権）がないことや、外国人の犯罪を日本が裁けないこと（領事裁判権の承認）など、日本に不利な不平等条約でした。